

新型コロナウイルス感染症（COVID-19）に伴う国営公園利用者数の対前年度比の変化

Year-on-year Percentage Changes in the Number of National Government Park Visitors after the COVID-19 Pandemic

緒方 京一
Kyoichi OGATA

【要旨】

新型コロナウイルス（COVID-19）の感染者拡大と政府による緊急事態宣言を受け臨時閉園措置を取った、国営昭和記念公園、国営武蔵丘陵森林公園、国営常陸海浜公園、国営アルプスあづみの公園について、再開園以降の利用者数を①大人②団体③年間パスポート④小人の4分類毎に前年度の利用者数と比較し、各管理センターが毎月実施している利用増減分析の結果を整理した。その結果、国営公園がフィジカル・ディスタンスを保てる場所として、またコロナ感染症対策による活動制限・運動不足解消の場所として活用されていることがわかった。そして、大人や年間パスポートの利用者は、コロナの感染状況に関係なく来園していること、小中学校の団体はコロナ感染拡大防止策として目的地を公園等の野外にしていること、臨時閉園すると近隣の国営公園を利用することが把握された。

【キーワード】

新型コロナウイルス（COVID-19）、国営公園、利用者、前年度比、新しい生活様式

小規模公園の機能の集約・再編に関する考察

A Study on Reorganization and Aggregation of Functions at Small Parks

池貝 浩
Hiroshi IKEGAI

【要旨】

「小規模公園の集約・再編に関する考察」¹⁾では、公園の廃止を伴う小規模公園の集約と再編に関する実態が明らかにされたが、本研究では、公園の廃止を伴わない小規模公園の機能の集約と再編に関して、事例調査をもとに考察を行った。自治体においては、小規模公園の機能の集約・再編が望まれているが、実施手法が不明、地元の合意形成が困難、取組に関する予算の確保が困難等の課題により、具体的な取組が進捗していないことが明らかになっている。考察の結果、客観的データに基づいた合理的な検討、その検討の結果に基づいた市民への説明と市民からの意見の反映、機能の重複を防ぐことによる投資効果を高める等の取組を進めることによって、上記の課題への対応が図られることが示唆された。

【キーワード】

都市公園、小規模公園、提供公園、公園機能の再編、事例研究

都市公園における樹木点検・診断体制のあり方

A Report on Checking and Management System on Trees at Urban Parks

高橋 悦子 中田 哲史
Etsuko TAKAHASHI Tetsushi NAKATA

【要旨】

街路樹と比較して、公園樹木には統一的な樹木点検基準はないため、公園の管理体制などによって、独自に樹木点検が実施されているのが現状である。これを踏まえ、目白台運動公園における樹木点検状況を元に、課題を考察した。目白台運動公園では、日常的な巡回中の簡易点検、年1回程度の担当者による点検、年1回以上の樹木医による点検と、その結果を受け、必要に応じて診断を実施している。これらの状況より、点検実施者の知識の向上、点検時期の検討、診断後の判断体制の確立、地域住民に配慮した管理運営が課題としてあげられ、スタッフの知識や体制等ソフト面に関する課題、特に地域との関係に配慮する必要があると確認された。

【キーワード】

樹木調査, 樹木管理, 腐朽菌, ベッコウタケ, 目白台運動公園

新型コロナウイルス感染症のパンデミックに対する World Urban Parks の取り組み

World Urban Parks' Response to COVID-19

嶺岸 さゆり
Sayuri MINEGISHI

【要旨】

2020年3月に世界保健機関により表明された新型コロナウイルス感染症のパンデミックが続く中、都市公園、オープンスペース、レクリエーション分野を代表する国際組織であるWorld Urban Parksが2020年に実施した主な取り組みについてまとめ、その特徴と課題について整理した。World Urban Parksが都市における公園の役割や重要性を伝え、新型コロナウイルス感染症のパンデミック後の都市づくりに公園を不可欠なインフラとして位置付けるために行った取り組みは、即時性があること、意識啓発を促していること、公園管理者のニーズに対応していること、他の組織と連携して行っていること、情報発信の工夫を行っていることなどの特徴が確認できた。また、日本ではWorld Urban Parksの取り組みについて、World Urban Parks ジャパンが翻訳して発信し、会員に参画を呼びかけた。その活動を通して日本国内でもWorld Urban Parksの取り組みへの反応が確認できた。今回のパンデミックで都市公園の価値が再認識された機会に、都市政策に公園を組み入れた住みやすい都市づくりが行われるためには、World Urban Parksは今後も公園の多面的な役割について分かりやすく伝え、他の組織と連携してより一層アピールするとともに組織の認知度を上げていく必要があると考えられる。

【キーワード】

COVID-19, 都市公園, 健康, 都市づくり, 社会インフラ

国営武蔵丘陵森林公園における入園者数変動要因に関する研究

A Study on the Fluctuation in the Number of Visitors in the Musashi-Kyuryo National Government Park

尹 紋榮

MoonYoung YOON

【要旨】

本研究では、国営武蔵丘陵森林公園を対象として、気象条件等による入園者数の変動に影響する要因を検証した後、予測式を算出し、入園者数の予測手法を確立することを目的とした。その結果、予測式を検討する過程で、土曜日、日曜日、祝日、5月無料開園日、その他無料開園日、連休の中日、子供の日、桜、100～499人イベント、500～999人イベント、1000人以上イベント、夜間イベントの12カテゴリーは入園者数を増加させる要因であり、一方、9時曇、9時雨、最高気温15°C未満、最高気温31°C以上の4カテゴリーは入園者数を減少させる要因であることが把握された。また、16カテゴリーで予測式を作成した結果、決定係数は0.81であることが明らかになった。しかし、2020年度の予測値は実測値との乖離が大きいことが課題である。今後、予測精度を上げるために、月別、繁忙期別のように期間を設定した上で予測式を算出すること、実測値と予測値の乖離があった日に対し、増減要因の把握やデータ収集が必要だと考えられる。

【キーワード】

国営武蔵丘陵森林公園, 入園者数, 数量化理論 I 類

都市公園における芝生管理の自動化がもたらす影響と費用対効果の分析

Analysis of Impact and Cost Effectiveness by Automated Lawn Maintenance in Urban Parks

森崎 玲大

尹 紋榮

Reita MORISAKI

Moonyoung YOON

【要旨】

本研究は、都市公園における芝生管理（なかでも芝刈工）の自動化の実現性や課題を把握することを目的に、3か所の公園にて自動芝刈機による施工を行った結果をとりまとめ、自動化が及ぼす影響を明らかにするとともに、費用対効果の側面から芝生管理の自動化の可能性について検討した。その結果、芝生工の自動化は、芝刈や集草の手間の削減、低騒音やCO₂排出量抑制等周辺住民や環境にも配慮したメリットがある、一方で課題として挙げられた要素は、自動芝刈機のメンテナンス等を自動化することで増えた作業であったが、それらの作業内容は時間をかけて習慣化し芝生管理の一環とすることで対応できるものと考えられる。さらに、従来と自動化後の芝刈工における面積別の年間管理費の概算シミュレーションを行った結果、芝刈工の自動化は従来に比べて芝刈工に必要な時間や作業人数、コストの削減に寄与することが示唆された。

【キーワード】

都市公園, 芝生管理, 自動芝刈機, 費用対効果